

# 凍結による破損予防

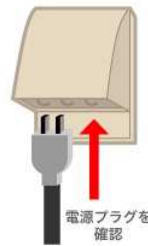
機器や配管が凍結すると、給湯ができないばかりでなく、水漏れの原因となります。次のいずれかの方法により凍結による破損を予防してください。

通常の寒さのとき（外気温が $-15^{\circ}\text{C}\sim 0^{\circ}\text{C}$ ）は凍結予防装置による方法  
異常寒波のとき（外気温が $-15^{\circ}\text{C}$ 以下）は通水による方法  
長期不在のときは機器内の水を抜く方法

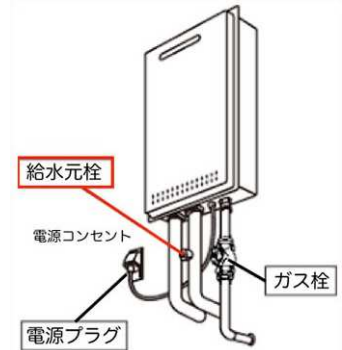
## 通常の寒さのとき（外気温が $-15^{\circ}\text{C}\sim 0^{\circ}\text{C}$ ）

この機器には、気温が下がってくると自動的に機器内を保温する凍結予防ヒーターがついています。通常は機器の電源プラグをコンセントに差し込まれた状態にしておけば、機器内の凍結は予防できます。凍結予防装置は運転スイッチが「入」「切」に関係なく作動します。

電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確かめる



## 凍結予防装置による方法



お願い

電源プラグがコンセントから抜かれていると作動しませんのでご注意ください。この方法では、機器内の凍結を予防できても配管は凍結することがありますので、配管は必ず保温材や電気ヒーターを巻くなどの措置をしてください。次の朝、お使いになるときは給湯栓を開けて、水が出ることを確認してから運転スイッチを「入」にしてください。

## 異常寒波のとき（外気温が $-15^{\circ}\text{C}$ 以下）

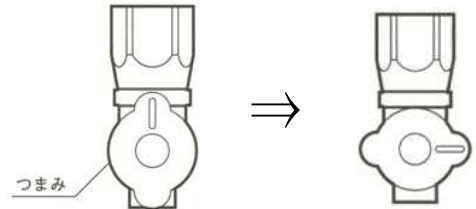
## 通水による方法

機器本体だけでなく、給水 給湯配管、給水元栓などの凍結予防もできます。

1. 運転スイッチを「切」にする



2. ガス栓を閉じる



3. 給湯栓から水を流す

1分間に約400cc ・太さ約4mmを流したままにしておきます。



4. 流れる量を確認する

流量が不安定になることがありますので約30分後に再度流れる量を確認してください。



お願い

家の人に凍結予防のため水を流していることをお知らせください。水を止めると凍結します。

## ◇注意！やけど注意

使用后すぐに水抜きをしない。機器やお湯が高温になっていますので冷えてから行う。

### 長期不在のとき

長期不在等で家の電気ブレーカーを「切」にする場合や電源プラグを抜く場合には、この機器内の水を抜く方法によります。

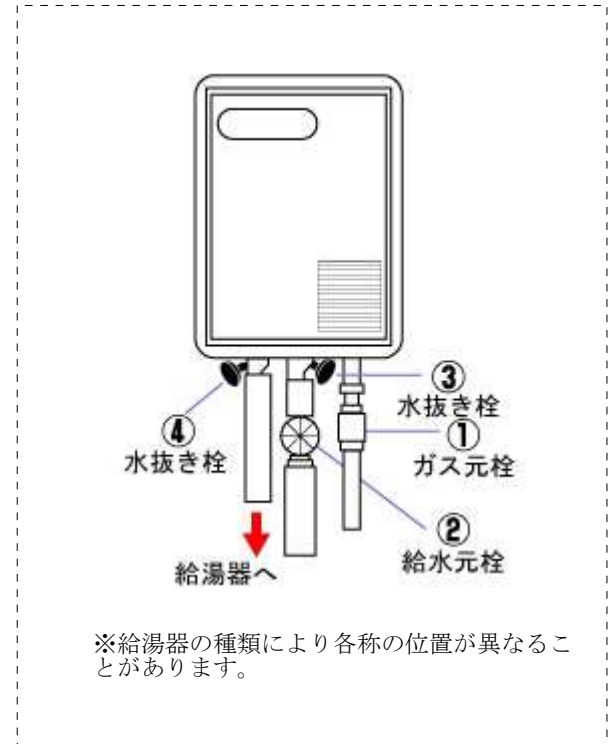
- ①ガス栓 ① を閉じます。
- ②給水元栓 ② を閉じます。
- ③全ての給湯栓を全開にします。
- ④水抜き栓 ③④ を外して、水が出ることを確認してください。
- ⑤電源プラグをコンセントから抜きます。

以上の操作で機器内の水は排水されますので、次にお使いになるまでそのままにしておいてください。

### 再使用する場合

- ①水抜き栓 ③④ を閉じます。
- ②すべての給湯栓を閉じます。
- ③給水元栓 ② を開き、水漏れがないか確認します。
- ④電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ⑤ガス栓 ① を全開にします。

### 機器内の水を抜く方法



### お願い

水抜きをするとき、床などに水が流れては不都合な場所では、あらかじめ容器を用意して、水を受けてください。

水抜き栓は元通りに確実に閉じてください。閉じかたが不十分であったり閉じ忘れたりするとそこから水漏れします。

### 凍結したときは

凍結した場合、ガス栓・給水元栓を閉じてください。凍結したまま運転操作をしますと機器に異常が生じる場合があります。運転スイッチを「切」の状態に給湯栓開けて水が出てくればご使用になれます。

通水したら、水漏れがないことを確認のうえ、ご使用ください。

取扱説明書に従った凍結予防の処置をせずに機器や配管が破損しますと高額の修理費用（有料）がかかる場合があります。

機器や配管が破損し、水漏れで壁を汚したり、階下を濡らした場合の修理・補修費用は、お客様の負担となります。